

乳がん検査と治療

副院長 兼 外科 総括部長

日野 直樹

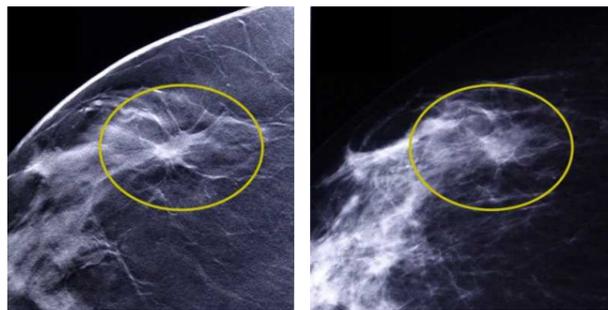
市民病院の乳腺外科では、2002年に私が着任してから1300名以上の乳がん患者さんを治療してきました。乳がん治療の基準である診療ガイドラインを基に患者さんの状態や希望を考慮し、最もいいと思われる治療を選択します。当院にて可能な検査と治療についてご紹介します。

乳がん検査

トモシンセシスマンモグラフィー

3Dマンモグラフィーとも言われ、通常のマンモグラフィーより病変を探す能力がすぐれています。

下図・左のトモシンセシスマンモグラフィー画像では、腫瘍の周囲に乳がんの特徴的なスピキュラといわれる突起が映っていますが、右の通常のマンモグラフィー画像では映らず、正常の乳腺と区別ができません。



トモシンセシスマンモグラフィーで撮影した画像

通常のマンモグラフィーで撮影した画像

乳腺エコー（超音波検査）

乳がん検診には、エコーとマンモグラフィーのどちらが有効でしょうか。

実は、1cm程度の乳がんはマンモグラフィーよりエコーの方が見つけやすい事が分かっています。しかしエコーは乳房全体をみるのが苦手で、エコーを当てたところしか分かりません。真っ暗な部屋の中を懐中電灯だけで探して

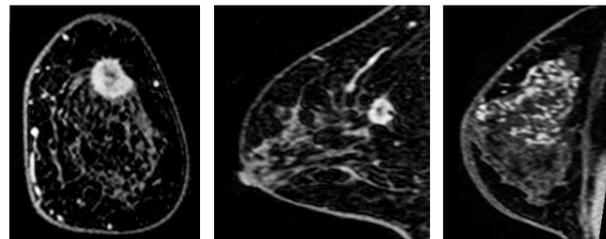
いるようなもので、全体を探せたかどうかの確認が困難です。一方、マンモグラフィーは部屋全体を淡く照らすような検査です。マンモグラフィーがエコーをするための地図の役割をしています。出来るだけ両方の検査を受ける事をお勧めします。

乳腺 MRI

以下のような場合にMRI検査を行います。

- ・マンモグラフィーやエコーで乳がんの可能性があると診断された場合
- ・乳がんとの診断後に乳房内での広がり調べ、部分切除が可能か診断する場合
- ・反対側の乳房に悪いところがないか、手術前に確認する場合など

MRI用の造影剤を注射し、両側の乳房を検査します。喘息発作のある方や、腎機能が悪い場合はできないこともあります。



MRIで撮影した画像（白く写っている部分ががん）

生検（組織診）

乳がんが疑われる場合は、診断を確定させるために組織診検査をします。局所麻酔で腫瘍に針を刺したり、手術で組織を採って顕微鏡で調べる検査です。結果が出るのに1週間程度かかります。

単に診断するだけでなく、治療方針を決めるために大切な検査です。

手術

乳房温存療法、乳房全摘、同時乳房再建、センチネルリンパ節生検^{※1}、腋窩リンパ節郭清^{※2}等があります。腫瘍の大きさや組織検査でわかるサブタイプ^{※2}、リンパ節転移の程度などで術式を決めます。最近では、がんになりやすい遺伝子異常の有無を検査し、異常があれば全摘を勧める場合もあります。

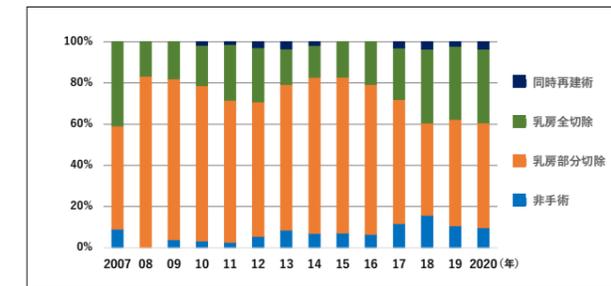
※1. 乳房にがんがある場合、リンパ管を通じて最初に流れ着くリンパ節をセンチネルリンパ節と呼ぶ。このリンパ節を見つけて摘出し、がんの転移があるかを調べる検査。

※2. 乳がんの発生や進行に、どのような因子が影響しているのかで乳がんを分類する考え方。



当院手術術式の変化

グラフのように、以前は80%程度の患者さんに部分切除が行われてきましたが、腫瘍が大きい場合は乳房の変形が強くなる事もあり、現在では乳房を全部切除する手術を選択する事が増えています。全摘手術と同時に乳房再建術を行う事もあります。

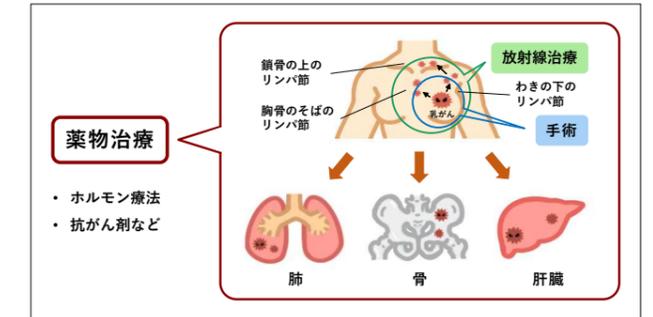


薬物療法

ほとんどの乳がんで、再発を抑えるためには薬物療法が必要です。診断できないほど小さながん細胞が、手術では取り切れない乳房以外の全身に広がっている事があるといわれているからです。そのため全身に効く薬の治療（ホルモン療法・抗がん剤治療・分子標的薬）を行い

ます。乳がんの性質や転移の程度によって、ホルモン療法を選択したり抗がん剤を投与したりします。

また術前化学療法と言って、一部の乳がんでは先に抗がん剤治療を行う事があります。抗がん剤治療後に手術を行うことで、治療効果が確認できます。効果が不十分な場合は、術後にも抗がん剤を追加する事で再発の確率を下げる事ができます。



薬物療法は乳がんの性質や転移の程度によって選択

放射線治療

乳房部分切除後や、全切除後でも脇の下のリンパ節に一定以上の転移を認めたときに行います。すべて外来通院で、休日以外連日25〜30回行います。

入院期間

すべての治療のうち入院が必要な期間は、手術で5〜14日、抗がん剤投与は開始時のみ2日間です。ほとんどの治療は外来通院で行います。

遺伝子検査

乳がんや卵巣がんになりやすい「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」の遺伝子検査や、再発予防に抗がん剤の適応を決めるオンコタイプDX検査なども行っています。

受診のすすめ

徳島市民病院では、現在女性医師を含め4名の医師、女性放射線技師、乳がん看護認定看護師、薬剤師、がんリハビリ、がん診療支援センターなど多職種によるチーム医療で乳がん治療に当たっています。また、がんの痛みだけでなく、様々な悩みや苦痛・困難にも対応する緩和ケアも充実していますので、安心して受診してください。

なお、治療の対象となる疾患は乳がんだけではなく、乳房の良性疾患についてもご相談ください。